愛媛（関連）の文学ほか　　地元関連も読んでみよう（題名の後の＊印はノンフィクション）

宮本輝『地の星』:『流転の海』第三部で、南宇和が舞台。
獅子文六『てんやわんや』: 南予が舞台。
岩村昇『ネパールの碧い空』＊『ヒマラヤから祖国へ』＊：岩村は宇和島出身、ネパールで医療活動に従事。
片山恭一『世界の中心で、愛をさけぶ』: 片山は宇和島東の理系→九大農学部
関口尚『ナツイロ』: 八幡浜が舞台。
吉村昭『ふぉん・しいほるとの娘』: シーボルトの娘・楠本イネ（女医）は宇和にいたことがある。
大江健三郎『芽むしり仔撃ち』『万延元年のフット・ボール』『同時代ゲーム』『晩年様式集』: 南予の谷間の村が舞台。大江には谷間の村を舞台とする作品が多い。大江は内子町出身→松山東高校→東大仏文。ゆえに南予の谷間の村と東京の二元中継の作品が多い。

山崎善啓『朝敵松山藩始末』＊：松山は親藩で幕命により長州を攻め朝敵とされた。そして・・
夏目漱石『坊っちゃん』: 漱石は江戸の生れだが松山中学で教師をした。
正岡子規『歌よみに与ふる書』＊：子規は松山の出身。
司馬遼太郎『坂の上の雲』: 第一巻に正岡子規が出てくる。秋山好古（陸軍）、秋山真之（海軍）兄弟も松山出身。
安倍能成『我が生ひ立ち』＊：安倍は松山出身で漱石門下。カント学者で文部大臣。
早坂暁『ダウンタウン・ヒーローズ』『花へんろ』『遍路国往還図』＊：早坂は北条の出身。
大江健三郎『ヒロシマ・ノート』＊『あいまいな日本の私』＊：岩波新書。有益。お薦め。
伊丹十三『ヨーロッパ退屈日記』: 伊丹は大江と松山東高校文芸部で同期だった。
藤岡弘『あきらめない』＊：藤岡は聖陵高校出身。仮面ライダー1 号で武道家。
田澤拓也『「延長十八回」終わらず』＊：１９６９年松山商業対三沢高校の伝説の試合を追う。
天童荒太『永遠の仔』『包帯クラブ』: 天童は松山北高校→明治大（文）。
敷村良子『がんばっていきまっしょい』: 松山東高校女子ボート部の話。
宇佐美まこと『羊は安らかに草を食（は）み』: 宇佐美は東雲高校→松山商科大学。
早見和真『店長がバカすぎて』『笑うマトリョーシカ』: 早見は神奈川の出身だが、一時松山に住んだ。前者は明らかに明屋書店、後者も松山が舞台。
吉岡大祐『ヒマラヤに学校をつくる』＊：吉岡は聖陵高校出身。ネパールで学校を作った。

赤江達也『矢内原忠雄』＊：岩波新書。矢内原は今治の出身で内村鑑三の継承者。
城山三郎『秀吉と武吉』: 村上武吉が主人公。
重見重吉『日本青年』＊：重見は 1865 年今治生まれで明治初期に米国イエール大学に留学。
越智道雄『ワスプ』＊：中公新書。越智は今治南高校→広島大学。アメリカのワスプについて概説している。
七月隆文『天使は奇跡を希（こいねが）う』: 舞台は今治。明らかに今治西高の人がモデル。
城山三郎『指揮官たちの特攻』＊：出てくるカミカゼ第１号の関行男は西条の出身だ。
鴻上尚史『不死身の特攻兵』＊：講談社現代新書。読み応えがある。特攻の理不尽さがよくわかる。鴻上尚史は新居浜西高校→早稲田大（法）。
高瀬隼子『おいしいご飯が食べられますように』: 芥川賞。高瀬は新居浜西高校→立命館大（文）。